

令和3年度 後期日程 入学者選抜学力検査問題  
公共政策学部 小論文 出題意図

一

戸坂潤が、1937(昭和 12)年に公表した著名な論考で、ナチ文化の特徴をその母胎であるドイツ文化哲学の特徴から説き起こし、論理的本質的に批判したものである。時代背景を念頭に、その論旨を正確に読み取るとともに、戸坂の見解に対して自らの主張を論理的に展開することを求めている。

問一

文脈に沿って論旨が理解できているかどうかを質問している。内容を簡潔に、また具体的に分かりやすく説明できていることが重要である。

問二

文脈に沿って論旨が正確に理解できているかを質問している。内容を論理的に、また具体的に説明できていることが重要である。

問三

戸坂の、ナチ文化論に対する批判の論点を正確に理解し、それをまとめるとともに、それに対する解答者の見解を質問している。この二つの問いに対して区別して的確に解答するとともに、自らの意見を自立的に構築し説得力をもって展開できることが重要である。

二

この問題では、公共政策に関して用いられる基礎的なデータを示した複数の図や表から、適切に情報を読み取る能力を図りたい。また、図や表から読み取った情報をもとに、公共的利用の課題を論じさせるが、そこでは、公共をどのように理解するか、公共的課題をどのように理解するか知識と理解力を測りたい。全体を通して論理的な説明能力も図りたい。

三

問一

問題文を適切に読んで、前後の文脈から安易に希望を与える言葉を想像し、八文字以内で記述できるかが評価のポイントになる。正解は、「また来るからね」であるが、その他に安易に希望を与えるのは、文脈から「すぐ行くからね」、「また会おうよ」、「また会おうね」などがあると考えられる。

問二

この問題は、まず筆者の主張を理解する力を問うている。そのうえで、自分の人生の中で希望が持てると思ったことばを頭におき、論理的に説明する力を評価した。さらにここで示した言葉の使い方を提案することで、説得的に自分の意見を述べることができるか否かを評価した。